

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200172		
法人名	株式会社 ケアフォレスト		
事業所名	グループホームひなたの広場		
所在地	栃木県足利市五十部町490-1		
自己評価作成日	平成24年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、利用者一人一人が楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心掛けるという理念を掲げ、利用者本位、環境整備、余暇活動の充実などに力を入れている。また、地域との関わりを大切に考え、今後も地域に根差した施設になれるよう心掛けていきたいと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは住宅密集地に位置し、隣接地には小規模多機能居宅介護施設があり合同でのイベントや利用者同士の交流もある。事業所名はゆったりと自分にあった一日を太陽のひなたの場で過ごすという意味からつけられたとおり、利用者が思い思いに過ごしている姿がある。敷地内には畑もあり利用者も一緒に収穫を楽しんでいる。管理者はリクリエーションの充実と地域との関わりを大切に考え、外食・市内の公園・季節に応じた初詣等の外出や地域ボランティア・保育園児との交流をしている。職員は同グループ内での研修会や交流会を行ったりして、知識を深めるよう努めており、職員の職業意欲向上に反映しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気大切に利用者一人一人が楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心掛けるという理念を掲げ、職員一丸となり実践に取り組んでいる。	利用者の有する能力に応じてそれぞれ役割を持って家庭的な環境の下で自立した日常生活を送ることを理念とし事務室に掲げている。職員は定期的に確認し合ったり会議にて振り返ったりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入をしている。また、地域の行事には積極的に参加をしている。施設の行事のお知らせとし、回覧板を活用させてもらうなどしている。	自治会に加入し、事業所の行事等を回覧板等で知らせたり、地域の夏祭りやボランティア等を通じて交流している。また、相談・助言等をしながら地域の一員として触れ合う機会に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や家族の方から相談を受けた場合助言をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の時に事業報告をしたり、今後の予定を話し合ったりなどしている。その際、参加者から意見があれば今後のケアに生かせるよう取り組んでいる。	運営推進会議は利用者・家族・自治会長・民生委員・市職員の参加において、2ヶ月に1回開催している。会議では事業所の取り組み報告や、避難訓練の報告、今後の予定等を話し合っている。参加者の発案で避難場所をより近くに変更するなど双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を生かして情報交換を行っている。わからない事がある時は、市担当者と相談するようにしている。	市には事業所の利用状況や利用者のニーズを具体的に伝えたり、運営推進会議等での来所時には問題点等を相談したりしている。また申請更新時においても介護保険制度上の不明な点を質問したりして市との連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう心掛けた介護をしている。	管理者・職員は身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束のないケアの実践に取り組み、更に会議の際に確認をしている。拘束をしない支援のマニュアル等を事務室に設置する等して、一人ひとりのリスクを把握し、安全を確保しつつ、抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	今後更に作成されたマニュアルを基に新人職員と共に学習の機会等を構築する事に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴介助時や、着脱介助等にボディチェックを行い利用者の状態を観察し、把握に努めている。虐待があった場合、すぐに気付けるよう取り組んでいる。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じてNPO法人財産管理支援センターフォレストよりアドバイスを受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明し、本人・家族に納得してもらうように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時に家族と意見交換をしている。また、家族の面会時に意見・要望等を聴いている。	運営推進会議や、利用料支払い等の来訪時に、心情を察しより多くの意見や要望を積極的に出してもらうよう働きかけている。また、契約時に他の機関にも苦情や意見等を表せる機関がある事を説明している。	家族の意見・不満・苦情等を運営に反映させて行く取り組みとして、平日の夜や日曜日等を活用し、「家族会」のような自由に意見交換できる場の設定に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の時に意見を聴き、運営に反映させている。その他、随時意見などを聴き、運営に反映させている。	施設長は、全職員出席の職員会議で意見を聞いたり、日常的に相談しやすい環境づくりを心掛けている。職員からは様々な意見が出され、勤務時間等の変更の提案があり、変更したこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務実績などを把握して業務評価表を基に賞与などに反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員は最初、他の職員と組んで業務に入るようにしている。施設内外の研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内で研修会や交流会等を行っている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前の事前訪問時に本人の意思、思いを聴いて不安を和らげ安心して利用が開始できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に家族の困っていること、不安に思っていることをよく聴いて、適切に助言できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族にどのようなニーズがあり、どのような支援が必要かを見極め、その人に合ったサービス利用を支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ等できる利用者には手伝ってもらい日常生活に役割を持ってもらうよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状態に応じ、家族とは適時話し合っている。面会時には本人の状態を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との連絡を密にするよう心掛けている。また、日々のコミュニケーション時に馴染の場所や店等を聴き、把握するよう心掛けている。	今迄の生活の延長線上であるよう、家族との外食、行きつけの理髪店等に出掛けるなど、利用者を支えながら地域や地域住民との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性、相性などを把握し、お互い支え合うことができるよう支援をしている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了した利用者についても、相談等あるようなら支援するよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人のニーズを把握し利用者本位の介護を心掛けている。困難な時は、定例会議の時、職員間で情報の共有をし、話し合っている。	利用時前に家族等から生活歴を聞き、日々の行動や表情を通して思いや意向の把握に努めている。困難時には、定例会議において職員間で情報の共有をして本人本位に心がけた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の時に生活歴を聴いている。また、日々の関わりの中で話を聞くよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人のできる事、できない事を把握し、自立支援の介護を心掛けている。また、利用者の生活リズムを把握するよう心掛け、その人のペースで生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を聴きケアプランに反映させている。	本人及び家族のニーズを踏まえ、職員会議において全員で話し合いながら作成している。月1回ケアプランの見直しをして基本的に1年としているが状態の変化に伴い随時の見直しをした介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録表、業務日誌等に日々の様子を記入している。職員はそれを自由に見ることができ、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状におけるニーズの把握に努め臨機応変の対応ができるよう心掛けている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の公民館で毎年秋頃文化祭が開催されるので、作品を出品している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの主治医との関係性を大切にしている。本人・家族の希望があれば施設協力医の往診を受けるよう支援している。	月1回の協力医の往診はあるが、希望により家族の協力のもと、かかりつけ医への受診を継続している。受診結果・服薬に関する情報の共有を図っている。歯科・眼科等も家族支援にて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師医は配置していない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、施設協力医と相談し、決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に十分に説明し理解を得るようにしている。現実的にターミナルケアが必要になった場合は、家族・医療機関・施設で話し合い対応している。	利用開始時に家族等から事前調査を行い、事業所には看護師がいない事や、その時々々の事業所としての力量を説明している。今後ターミナルケアが必要時においては家族・医療機関・施設等において話し合い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については定例会議時に話している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと年2回避難訓練を実施している。	年2回消防署立ち会いのもと、避難訓練を実施している。日頃から災害時における心構えを念頭においている。職員連絡網もあり迅速に対応できる体制になっている。	利用者一人ひとりの状態・職員だけの誘導の限界を踏まえ、地域の人々と日頃から話し合い一緒に訓練を行うなど、実践的な取り組み・協力体制を自治会や運営推進会議で協力を呼びかけ、実現できるように期待したい。また、備蓄の準備への取り組みにも期待したい。

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの介護にならないよう言葉遣いに注意をしている。常に利用者には敬意を持ち対応するよう心掛けている。	利用者の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけ、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。日々の中で一人ひとりが尊厳ある姿を具体的に現わせるように支える支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを重視し、信頼関係を築けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、利用者一人一人のペースに合わせた介護を心掛けている。また、利用者の希望があるようなら、それに沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は利用者と相談しながら決めている。月に一度、訪問の散髪があり、希望者は利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け方や、配膳のやり方など、おいしく食事ができるよう工夫をしている。食事準備、後片付け等手伝える方はやってもらうようにしている。	食材の仕入れや献立作りは職員が行い、利用者の好みや嫌いなものを把握している。調理方法についても食べ易いように配慮している。月1回ファミリーレストランや洋食屋へ出掛け、誕生日等の外食なども楽しみの一環となっている。	利用者の個々の力を活かしながら、利用者が調理や片付けをやってみたいと言う前向きな意思や気持ちを引き出すような声かけや場面作りの工夫、食を通しての様々な取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表を記録し利用者の状態を把握している。また、週1回体重チェックをしている。食事形態は利用者の身体状況に合わせ食べやすいよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。利用者の状態にあった口腔ケアをしている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し、排泄パターンを把握している。その人に合った排泄介助を心掛けている。	入居時おむつをしていた方もきめ細かな気配りを行いながら紙パンツに移行出来たりしている。また、言葉で表現できない方の言葉にならない表現を察知し自立に向けた支援がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く取る、腹部マッサージをする、体操をし体を動かす等便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっている。しかし、利用者の要望、状態によっては臨機応変に対応している。	利用者一人ひとりの生活習慣や、その時々希望を確認しながら支援している。入浴の時間は基本的には決まっているが、希望を尊重し夜間入浴の時もある。季節に応じて入浴剤の工夫をしている。入浴拒否者に対しては無理強いせず、タイミングを見計らい対応する職員を変えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握したうえで各利用者に合った対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者が服用している薬は把握し、理解するよう努めている。服薬介助時には誤薬がないよう名前をしっかりと確認するよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を参考にし、その人に合ったレクリエーションや役割をもってもらおうよう心掛けている。そうすることにより、充実した生活が送れるよう支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外食、外出の企画をしている。また、天気の良い日は近所を散歩するなど、なるべく外に出かけるよう支援している。	一人ひとりの希望には出来る限り対応している。日常的に近隣への散歩等の支援をして、外出の機会を多くしている。また、定期的に計画し季節に応じて初詣や公園にも出掛けている。家族面会時に一緒に昼食等に出掛けてもらうよう声をかける等の工夫もしている。	

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を預かっており、買い物や外食などの時にそこから支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば適時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は季節に合った飾りつけをしている。共用空間は清潔保持を心掛けている。臭い対策として、消臭剤、空気清浄器等設置している。施設内は過ごしやすい温度に保っている。	ボランティアがイベント企画できるようになっている広々とした共有空間は生活感や季節感のある物・利用者の習字等が飾られ暮らしの場作りがされている。一段小高い畳の間からは周囲の畑等が一目で見渡せ、居心地の良い空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思い思いに好きな場所で過ごせるよう椅子や机を移動するなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や、使い慣れた道具など持ってきてもらう等自宅にいた時と同じような雰囲気づくりをし、居心地の良い暮らしができるよう支援している。	自宅との環境のギャップを感じさせない工夫として、布団・テレビ、写真等を持ち込んでいる。ベッド・カーテン・筆筒等は備え付けとなっている。職員の部屋担当制を設けているので、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地の良い居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴槽、畳部屋には手すりをつけている。施設内はバリアフリーである。職員は利用者の見守りを常に行い、事故防止の努めをしている。		